

日本海洋学会評議員会 2017年10月14日

2017年度日本海洋学会秋季評議員会議事録

日時：2017年10月14日（日）18:30～20:13

場所：仙台国際センター会議棟第二会場（白檀1）

出席者：日比谷会長、神田副会長、植松監査、須賀監査、青木、秋友、安藤、石井、石坂、市川(香)、市川(洋)、伊藤、岩坂、上、植原、江淵、大島、岡、小川、小埜、小畑、河野、川合(美)、饒田、久保川、久保田、小松、根田、齊藤(誠)、齊藤(宏)、杉崎、鈴村、武岡、武田、津田、東塚、中野、西岡、花輪、原田、古谷、升本、松野、三寺、見延、森本、安田、山中、吉川、吉田各評議員（50名）

宗林三賞選考委員長、一見環境科学賞選考委員長、門谷沿岸海洋研究会会長、田村ブレイクスルー研究会会長、川合(義)幹事、北出幹事、山田幹事、毎日学術フォーラム(小野、服部)

委任状：中村、万田、道田各評議員（3名）

開会に先立ち、北出集会担当幹事より、出席者および委任状の数が評議員会細則第3条の規定による評議員会の成立要件を満たしている旨報告があった。

1. 会長挨拶（日比谷会長）

評議員会開催に先立ち、秋季大会実行委員会へのお礼が述べられた。続いて、蒲生俊敬会員が海洋立国推進功労者表彰を受賞した件、JpGU-AGU Joint Meeting 2017について、全体として8,148名の参加者、255件のセッション、5,562件（AUGからは1,000件以上）の発表があった件、海洋学会関連としては26件のセッション、515件の発表があった件、2018年度のJpGUについて、236件のセッションが提案されており、うち海洋学会関連は25件であった件、次回のJpGU-AGU Joint Meetingは2020年に開催される予定である件、Journal Oceanographyの契約について見直しを行った結果、2019年1月以降の契約において大幅な支出削減に成功し、毎年切り崩していた財政の立て直しをすることができた件、日本学術会議の第24期が始まり、大型研究計画2020のマスタープラン公募が始まること、今年の12月にはワークショップが開催される件が報告された。

2. 大会委員長挨拶（花輪大会委員長）

評議員会開催に先立ち、秋季大会の参加状況として事前登録378名、名誉会員2名、企業等展示関係者50名に加えて、当日新規受付の45名を加え、10月14日現在で316

日本海洋学会評議員会 2017年10月14日

名の参加があったこと、合計16件のセッション（提案型12件、一般4件）があり、口頭発表162件、ポスター84件の合計246件の発表があったこと、この他シンポジウム4件、ナイトセッション2件、イベント3件が実施されたこと、賛助会員10団体、機器等展示18件、広告掲載10団体があったことが報告された。

3. 報告事項

1) 会務報告

庶務（東塚幹事）

会員異動状況、シンポジウム等の開催・共催等、JpGU-AGU 2017 Joint Meeting（2017年度春季大会）に関するアンケートについて報告があった。

編集

① JO（石坂編集委員長）

発行状況、投稿・受理状況、特別セクション号の論文編集作業、2016年のインパクトファクター、高頻度論文について報告があった。

② 海の研究（市川編集委員長）

2017年度前期の出版実績、2017年度後期の出版計画、投稿論文状況、委員交代、J-STAGEでの公開の再開、ASFAへの英文要旨の転載、投稿規定の改訂、「投稿の手引き」、「海の研究について」の改訂について検討中との報告があった。

③ JOS ニュースレター（安藤編集委員長）

Vol. 7(2)～(4)までの2017年度の発行状況、vol. 7(1)の石黒博士の記事についてノーベル文学賞受賞関係でテレビ朝日から記事の引用について打診があったことについて報告があった。

研究発表（山田幹事）

2018年度春季大会の予定について報告があった。

賞選考

① 学会賞・岡田賞・宇田賞（宗林委員長）

各賞の選考状況について報告があった。

② 日高論文賞、奨励論文賞（岡委員長代理）

各賞の選考状況について報告があった。

日本海洋学会評議員会 2017年10月14日

③ 環境科学賞（一見委員長）

選考状況について報告があった。

選挙管理（東塚幹事）

2017年度選挙の実施方法、選挙管理委員会、選挙スケジュールについて報告があった。

広報委員会（小笠委員長）

教育問題研究会との共催で実施している「海の出前授業」の活動状況、秋季大会会期中イベント、ウェブページの一般向けコンテンツ作成、パンフレット改定予定について報告があった。

海洋観測ガイドライン編集委員会（小笠委員長）

改訂版の準備状況について報告があった。

海洋環境委員会（小笠委員長）

2017年度青い海助成事業の実施状況、緊急対応型の公募予定について報告があった。

海洋環境問題研究会（小笠研究会会長代理）

秋季大会会期中にシンポジウムを開催すること、沿岸環境測定マニュアルの見直しについて検討する予定であることが報告された。

沿岸海洋研究会（門谷研究会会長）

会誌発行、シンポジウム開催、内規改訂について検討している件、次期会長候補、総務部の移転、環境学委員会地球惑星科学委員会関係の合同分科会の小委員会の設立を検討している件について報告があった。

海洋生物学研究会（杉崎研究会会長）

委員、会員動向、今後の活動予定（シンポジウム開催予定）について報告があった。

教育問題研究会（轡田研究会会長）

2017年度前期活動報告および2017年度後期活動計画、その他について報告があった。

ブレイクスルー研究会（田村研究会会長）

これまでの活動報告および今後の活動計画について報告があった。

西南支部（松野支部長）

シンポジウム開催予定について報告があった。

2) 学界関連報告

日本海洋学会評議員会 2017年10月14日

学界動向（神田副会長）

16件の学界関連情報について報告された。

日本地球惑星科学連合（川合幹事）

選挙（大気水圏セクション定員30名に対し、34名立候補中）、団体会員、連合大会、その他（三宅賞がJpGUに移行する件等）について報告された。

水産・海洋科学研究連絡協議会（伊藤幹事）

2017年11月6日日本学術振興会主催のシンポ開催

第一回水産・海洋科学研究連絡協議会開催予定について報告された。

3) その他

- ・「海の温暖化」編集委員会（伊藤編集委員長代理）

編集委員会構成、販売状況、海洋アライアンスに50冊購入いただいた旨、報告された。

- ・「一家に1枚」ポスター企画WG（伊藤幹事）

経過報告がなされ、2017年10月13日に最終結果として不採択の旨連絡があったことが報告された。

- ・2018年度春季大会の開催について（川合幹事）

2018年度春季大会の準備状況詳細、スケジュールについて報告があった。

- ・2019年1月以降のJournal of Oceanographyの契約について（日比谷会長）

契約条件の骨子について報告がされ、冊子体の存続に関する意見があった。

4. 審議事項

1) 沿岸海洋研究会会長交代について（日比谷会長）

2018年度以降の会長について、門谷茂会員から松野健会員へ交代することが承認された。

2) 2018年度秋季大会の開催について（山田幹事）

大会期日、大会実行委員長および事務局長について承認された。

3) 名誉会員の推薦について（東塚幹事）

日本海洋学会評議員会 2017年10月14日

1名の会員が推薦候補として提案され、承認された。調書の作成を依頼することとなった。

以上